

博物館だより

No.189



令和4年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2022年 8月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

休館日 ※情報はR4.7.19現在

◆博物館NEWS

①夏の企画展 折り鶴が連んだ平和の木 植樹25周年記念企画
綴り方教師が愛した「河童(かっぱ)たち」展
— 中尾廣治資料「河童コレクショ」を戦後「綴り方教育」の断面—
会期：8月2日(火)～9月18日(日)

故中尾廣治氏は「綴り方(作文)教育による子どもたちの成長を願った京築地域の一小学校教師です。その活動成果は、同教育に関する豊富な実践や著作、ことに旧犀川町立燈畑小における「広島の話り部・福田安次さんとの交流」同(現みやこ町立犀川小への「被爆工ノキ」の記念植樹等として結実し、今なおその事績や人柄が慕われています。

一方で氏は実践対象の子どもたちにその姿を重ねたのか、愛嬌ある妖怪として知られる「河童」のコレクターで、様々な素材の河童の人形や工芸品・書籍等の資料を80点近く収集していました。これらは昨年当館に寄贈されましたが、見るものを「ほっこり」させる大変ユニークな資料です。

このたびその一部を、氏が生涯取り組んだ綴り方教育の資料とともにご紹介することとなりました。子どもと地域と平和を愛した綴り方教師の心温まる遺産をご覧ください。



▲河童土鈴(水天宮みやげ)



▲河童関連資料(版画・絵本等)と綴り方教育資料



▲やきもの系河童人形(手捻り作品)

◆主な展示資料

- ・ やきもの系河童人形
- ・ 工芸品(徳利・団扇・暖簾など)
- ・ 綴り方資料(日誌・書簡など)
- 観覧料 無料(常設展の観覧については有料です)

- 開館時間 9時30分～17時00分
- 休館日 月曜・祝日の翌日

◆講座・教室 催し物ガイド 8月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
8月6日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】
8月6日(土) 13時30分～
- 【古典かな講座】
8月20日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】
8月27日(土) 10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

文化遺産ボランティア(豊み隊!) 8月の活動案内

8月からガイド編登録者向けの研修を以下要領で行うこととなりました。ガイドは苦手でも関心あるという方の参加も歓迎です。お気軽にご参加下さい。

- ・日時：8月7日(日)10時～
- ・場所：博物館研修室
- ・備考①講話「みやこ町の歴史」
- ②「コロナ感染拡大時は中止を含め内容変更することがあります。
- ③新規参加も歓迎・可能です。

令和4年度夏休み子ども体験教室 「昆虫博士のお話&工作会のお知らせ」

博物館では「夏休みは色んな学びにチャレンジ!」する体験教室を開催しています。今年は昆虫をテーマに標本観察&ミニ工作教室を開催します。ふるってご参加下さい!

日時 8月21日(日)

*受付 9時30分～

*教室 10時～11時30分(予定)

場所 博物館研修室

内容 ①講話&ミニクラフト制作

②講師 松田勝弘さん

採集歴60年超の講師による標本解説と面白昆虫話など

参加費 200円(一人につき)

対象者 みやこ町内の小学生

定員 先着25名(保護者含む)

注意事項

※申し込みは電話または窓口で受け付けています。

※1～3年生は保護者の同伴(原則1名)が必要です。

※託児対応はしていません。

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴う情勢変化があった場合、中止を含めて内容変更する場合があります。



▲お話&工作会の会場に展示予定の昆虫標本(部分/左:チョウ[石垣島] 右:カミキリムシ[八景山])
当日の会場には講師の松田さんが永年にわたって採集した国内外の貴重な昆虫標本を展示します
身近な昆虫から図鑑でしかお目にかかれない海外の希少種まで「見るだけで楽しい!」会にしたい考えです

夏休みの思い出づくりいかがですか?お申込みお待ちしております!!



みやこの歴史発見伝 150 折り鶴が運んだ平和の木

て贈呈されたものです。
今回は、このエノキが小学校に植樹された経緯と心温まる交流の歴史についてご紹介します。

犀川小学校の「被爆エノキ2世」

今年の8月で広島、長崎に原子爆弾が投下され77年目の夏を迎えます。毎年、この時期には各学校等で核兵器の脅威を伝え、平和の尊さを再認識する取り組みが行われています。

犀川小学校の一角に、高さ10mほどに成長したエノキの木があります。学校の風景に溶け込んでいるこのエノキの木は、今から77年前の8月6日に広島に投下された原爆で被爆したエノキの木の2世です。広島県を除き「被爆エノキ2世」が所在するのは全国でも10か所ほどに止まります。犀川小学校を含めたこれらの「平和の木」は、原爆の悲惨さを後世に伝えてほしいという願いを込め被爆エノキの苗木を学校に贈る活動を続けた広島県の「語り部」福田安治氏（2015年に91歳で死去）によつ



犀川小学校の被爆エノキ2世

折り鶴が運んだ「平和の交流」

今から39年前の昭和58年（1983）5月、福田安治氏は広島市の平和公園にある「嵐の中の母子像」に捧げられていた一つの千羽鶴と添えられたリボンに記された「福岡県京都郡犀川町鏡畑小学校」という学校名に目を留めました。早速、福田氏は「修学旅行に来てくれてありがとう」という手紙を当時の鏡畑小学校の児童に贈りました。その後、鏡畑小学校から手紙が届き、被爆地を訪問した5、6年生7名の児童の感想と共に「お手紙を

いただいたて鶴が舞い戻ったような感激でございます」という担当教諭、中尾廣治氏のお礼状も同封されていました。福田氏は心から感激し、毎月2冊の児童書を鏡畑小学校に贈ります。これを受け取った児童は「福田文庫」と名付けて本に親しみ、その返礼として感想文と共に学校付近で採れた栗や梅を贈り、昭和60年（1985）には福田氏を卒業式に招待するなど心温まる交流が続ききました。また平和学習に取り組んでいた中尾氏は、福田氏に「子ども達にあの日の



中尾廣治氏
(みやこ町犀川出身)

惨状を伝えてほしい」と依頼しました。修学旅行で広島訪問が実現した際、鏡畑小学校の児童を出迎えた福田氏は被爆体験を話し、爆心地から約1kmで被爆した樹齢300年のエノキを案内しました。幹に爆風でできた大きな裂け目がみられるなど枯死寸前のこのエノキに児童が千羽鶴を手向けました。自らの体験を真剣に聴講する児童の姿勢や送られた感想文はその後「語り部」としての福田氏の心の支えになったと伝えられています。

伝統芸能の継承にも尽力

毎年4月に黒田神社（みやこ町勝山黒田）で奉納される「黒田楽」は新型コロナウイルス感染症拡大防止等により本年度3年間奉納が見送られました。この黒田楽は今から50年前の昭和47年（1972）4月にも一度中断しています。当時黒田小学校に赴任していた中尾廣治氏はこの状況をみて「地域に伝えられた伝統芸能を絶やしてはいけない」と声を上げ、勝山町商工会（当時）青年部協力のもと、黒田楽を復活させようとする気

運が高まりました。過去に楽を奉納した人々などに聞き取りを行いました。一度途絶えた楽の復活は想像以上に困難を極めました。地域の人々の協力で何回も修正を加えながら7年を隔て昭和54年（1979）4月に

見事、復活を遂げました。その後、黒田楽は町の文化財に指定され、平成8年（1996）には300年祭が開催されています。「黒田楽保存会」の関係者は「中尾氏の呼びかけがなければ黒田楽は永久に途絶えていたといっても過言ではない」と述べています。また中尾氏が鏡畑小学校赴任中には福田氏を「鏡畑神楽」の奉納に招待しており、地域の児童や伝統芸能をこよなく愛した中尾氏らしいエピソードとして両地域に伝えられています。

その後の交流とエノキの植樹

昭和62年（1987）中尾氏は病により入院します。福田氏は、励ましの絵葉書を一日一枚書いて送り、その数は最終的に1040枚になりました。平成3年（1991）中尾氏が書いた手紙



過去の「黒田楽」奉納状況

が福田氏に届いたのを最後に中尾廣治氏は63歳の生涯を閉じました。福田氏との交流を続けた鏡畑小学校は、児童数減少に伴い平成10年（1998）3月に閉校しました。福田氏は「これまでの交流の思いを託したい。新しい学校でも平和の祈りを芽吹かせて。」と鏡畑校区から一人だけ通うことになった犀川小学校に「被爆エノキ2世」を寄贈し、25年前の12月、児童によつて植樹されました。

平和の語り部

本年2月にウクライナへ軍事侵攻したロシアは、戦況の泥沼化に伴い核兵器の使用を示唆しています。また原子力発電所を攻撃する状況も放映されました。このように戦後、最も核兵器使用の緊張が高まった現在、その脅威を実体験した被爆者の体験談は、核兵器の使用を踏み止めさせる、最も重要なメッセージとなつていきます。核兵器がもたらす惨状を未来に伝えることを使命とした福田氏ですが、その思いを託された被爆エノキもまた平和の尊さを伝える「生き証人」といえます。平和教育に努めた中尾氏とのかけがえのない「平和の交流」の歴史は、この被爆エノキを通して今後も末永く伝えられていくことでしょう。

（井上信隆）